

技術検討の結果について

川越農林振興センター（林業部）では、「森林土木工事の技術検討に関する協定書※」に基づき、次のとおり森林土木工事の技術検討を実施しました。

1 技術検討の場所

大蔵山地区／飯能市大字南川地内

2 計画する工種・工法・数量等

治山堰堤1基（コンクリート）

g

3 技術検討の内容

- ・資機材の搬入方法及び仮置き場の位置
- ・現場で使用できる掘削系建設機械の規格
- ・コンクリート打設方法
- ・施工時における近接人家等の安全対策

4 実施日

令和5年10月2日（月）

5 参加した埼玉県森林土木建設業協会会員

（有）長若建設 埼玉県秩父郡小鹿野町長留 815

（有）新井土建 埼玉県秩父市相生町 2-16

6 検討結果

検討事項	検討結果
資機材の搬入方法及び仮置き場の位置	資機材の搬入は、水路沿いに仮設道を作設して行う。なお、地形が急峻な箇所は大型土のうを併用して盛土構造とする。 資材等の仮置き場の位置は、施工地左岸斜面とする。また、進入路入口にコンクリートポンプ車のヤードを確保する。
現場で使用できる掘削系建設機械の規格	土工量の規模から、0.45クラスのバックホウが望ましい。 なお、作業現場が狭隘なので旋回範囲に制限がある点にも留意する。

コンクリート打設方法	仮設道入口にコンクリートポンプ車を配置し、圧送管打設とする。なお、仮設道入口までの道路は大型コンクリートポンプ車でも通行可能である。
施工時における近接人家等の安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮設道の水路横断部について、仮設の暗渠管を設置する必要がある。 ・ 急勾配の仮設道となるため、土砂が流出しないように十分注意して現場管理する必要がある。また、可能な限り工期が短縮できる設計計画が望ましい。

※「森林土木工事の技術検討に関する協定書」は、狭隘で急峻な山間地域において行う森林土木工事（治山工事・森林管理道工事）を埼玉県が設計するにあたり、現場施工に係る専門的知識と経験を有する埼玉県森林土木建設業協会と技術検討を行うことで、現場状況に応じた適切な設計積算の実施のほか、工事の安全及び円滑な施工の確保と併せて、森林土木工事に係る者の技術力の向上に資することを目的として、令和4年11月24日に締結したものです。